

令和5年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。

・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(家庭科) 教科主任名 小林真紀子

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果 ▲課題＞

観点	前半～9月			後半～1月		次年度に向けて まとめ
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策
知識・技能	1年	▲授業で学習した内容を読み取ることはできても、それをどのように日常生活に結び付けて考えていくかが難しかったと思われる。今後、どのように活用することができるかが課題である。また、テストへの意欲や取り組みが課題である。	身近なこととして具体的な映像など視覚に訴える教材の準備が必要であるため、用意をする。 定期テストへの取り組み方法やポイントを伝える。	1年		
	2年	○日常生活の中で考えられる「栄養バランスを目で見て判断する」や「栄養を考えた献立を立てること」に関する技能は高いものがあった。 ▲今後も生活の中で生かせるように身に付いているかが課題としてあげられる。	・家庭で授業の中で習った知識を踏まえた取り組みを実践する。 ・2学期に取り組む実習において、家庭で実践する。	2年		
	3年	▲授業中のノートやレポートなどで技能の評価をしたが、意図するレベルまでもっていくことができていなかった。これがテストの得点に現れたことが課題として考えられる。	・定期テストへの取り組み方法やポイントを直前に伝える。課題に対しての、表現方法を詳しく説明する。数多くの実践をして評価の水準を上げる。	3年		
思考・判断・表現	1年	▲「家庭を支える社会」の分野では、自分を取り巻く社会として身近に捉えることが難しく、予期した内容の回答が得られなかった。	身近なこととして具体的な映像など視覚に訴える教材の準備が必要であるため、用意をする。	1年		
	2年	○授業で学習した内容を正確に読み取ることはできた。昨年度より時間数や繰り返しの学習によって身に付けることができた。 ▲2学期の内容も同様に計画しているが時間がかかるため、内容や計画は課題である。	・2学期は、調べ学習や生活に密着した課題解決を自ら考え、生活に取り入れられる学習内容を取り入れる。	2年		
	3年	▲授業で学習した質問に対して、予想し、発展的に考えられる内容が判断基準に達しなかったため、良い評価とならなかった事が課題とされる。	・学習内容を掘り下げて、要求する回答に対するヒントを加え詳しく説明をする。 ・考えを発展的に考える力を付ける。	3年		
主体的に学習に取り組む態度	1年	○栄養の行方など視覚教材などの活用で全体を通して、興味をもって主体的な取り組みがみられた。2学期は調理実習に時間をかけて意欲的に取り組める時間を作る。 ▲授業ごとに書く「わかったこと」への取り組みが課題である	・「書くこと」の書き方、内容、取り組み方を説明する。例を挙げて「何」を「どのように」理解したか書けるような指導をしていく。	1年		
	2年	○学習者用端末を使って主体的に取り組む授業によって、意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ▲調べ学習中心に学習者用端末を使ったが、今後の生活にどう活かしていくかを考える力の不足があった。	・今後の生活への活かし方を班活動などで考え発表するなど、多方面から考える活動を考えていく。	2年		
	3年	▲幼児の生活と家族の分野で、幼児を取り巻く環境をどのように考えていくかを、具体的に想像していくことが難しかった。	・身近なこととして考える教材の工夫を考える。 ・映像やDVDを使い具体的に考える教材とする。	3年		